

C S W 6 3 報告書

三澤 里奈

若者支援をいただき、C S W 6 3に参加させていただいたことを深く感謝しております。

まず、事前準備が現地での充実度合を左右することを、^{ひしひし} 轟々と感じました。その準備段階から J A W Wよりいただいた細やかな支援は大変有難かったです。C S W 6 3開催中に事前にC S W 6 3直前勉強会、また公式文書ゼロドラフトを読む会を開催していただいたことで、開催期間中に何を学ぶのが明確になりました。また、過去の参加者の方々が、自分が特に関心のあるテーマについて出発前に入念に整理していたことを知り、私も世界の移民女性事情や、日本における労働環境など、事前学習を行いました。数多あるイベントの中から参加するものを組み合わせ、自分だけのC S Wを作っていく作業は心が躍りました。

開会式に先立つC S W 6 3コンサルテーションデーでは、世界中から女性の地位向上を目的として集ったことを喜び合いました。ステージで催されるイベントのひとつひとつを楽しみながら、私は亡き祖母のことを思い起こしました。年末年始、数日に渡り親族が集まる宴会の支度を、祖母はひとりで黙々と行っていました。本来ならば休暇期間であるはずの年末年始、台所で孤軍奮闘している姿は、幼い私の目にも不思議でした。「女に生まれたんだもの、仕方がないのよ。」と笑っていた祖母にも、このC S Wを見せてあげたいと思いました。まさにC S Wは、共感と連帯の場であることを感じさせられました。この輪を広げる活動を、私は日本に帰ったら実行しなくてはならないと思いました。

ユースイベントをとおし、着席して話を聴くだけでは、自分の声は人に届かないのだから、行動することが大切であると繰り返し語られました。私は、現在地域で日本在住の外国人のための生活支援に取り組んでいます。在留資格や言語の問題、暴力や紛争の問題と、母国を離れて生活する女性達を取り巻く環境は複雑化しています。そこで、移民女性のための活動を行っているグループのイベントに焦点を絞って参加することにしました。どのグループも、「言葉の壁」は大きな課題として挙げていました。世界中で同様の取り組みを行っている仲間がいることを知り、勇気づけられました。それだけではなく、活動資金の増やし方や広報への取り組みなど、アドボカシー面も学ぶことができたことが大きかったです。

また、事前準備の段階で、C S Wへのアジアからの参加者をもっと増やし、声を挙げていくことが今の課題でもあるということを聴きました。アジア・パシフィック地域アドボカシートレーニングでは、ネパールやインドの若者と、アジアは人口も一番多いのだから、このエネルギーを発信させていきたいということをお話しました。日本代表部の主宰のサイドイベントでは、日本における女性差別の問題が共有されて

いました。また、私個人が参加したセックスワーカーのための支援を行う団体のパ
レルイベントでは、質問時間の際に、「Japan Women's Watch の所属」ということを明
確に伝え、日本から参加していることをアピールしました。

C S W 6 3 をとおし、私は二つのことを学んだと思います。

一点目は、自分が **Civil Society** を発達させるために、どのように貢献できるのかを考え
ることの大切さです。私の活動している外国人支援団体は、現在女性支援を全面に出
してはいませんが、新たな観点として議題に挙げ、特別な支援が検討できないかを探
っていきたいと思います。二点目は、女性の地位を向上させるために続けられてきた
行動の歴史に敬意を払い、それを継承させていくことです。抑圧されてきた女性達
は、お互いに手を取り合い、歩んできた歴史があることをあらためて知ったのが、こ
の C S W 6 3 という場です。私は、北京行動要綱から学び直し、自分の行動を見直し
なければならないということを深く心に留めました。

最後に、若者支援受賞者として参加をさせていただいたことに重ねて感謝を申し上
げます。